

機関リポジトリの問題点

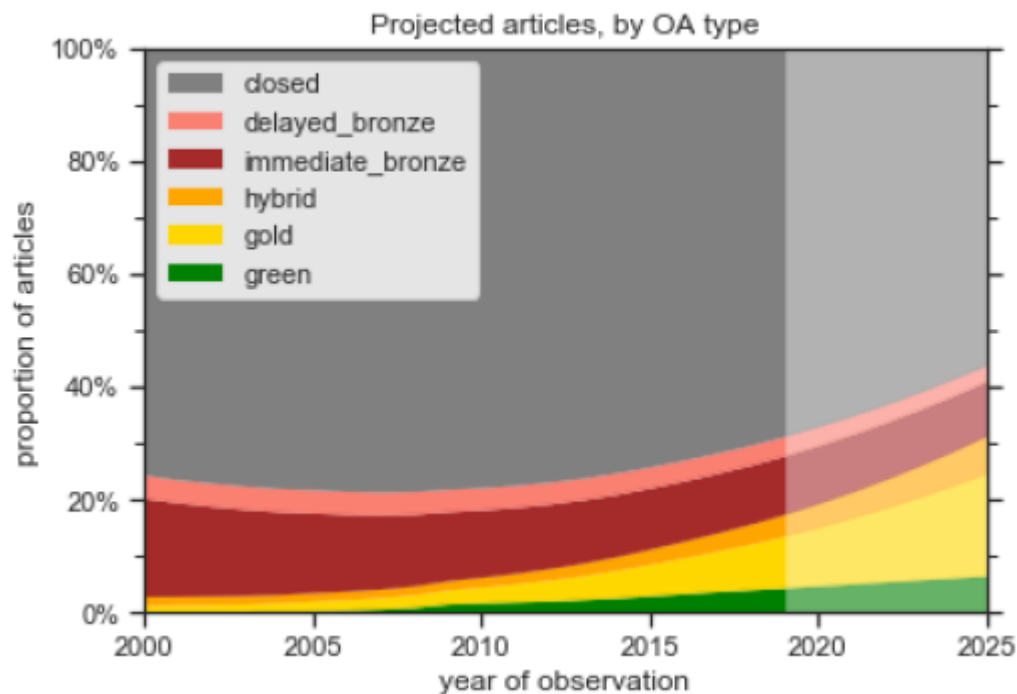
図書館総合展
「機関リポジトリからみた管理・検索基盤」
2021年11月9日

国立情報学研究所
オープンサイエンス基盤研究センター
尾城 孝一

機関リポジトリの設置目的

1. 査読済み論文（グリーンOA）
2. 紀要や学位論文などの学内刊行物（学内グレイリテラチャーのOA）
3. 研究データの公開（オープンサイエンス）

世界のグリーンOAの状況



The Future of OA: A large-scale analysis projecting Open Access publication and readership.

Heather Piwowar, Jason Priem, Richard Orr.
bioRxiv 795310;

doi: <https://doi.org/10.1101/795310>

Posted October 09, 2019

year	gold	hybrid	immediate bronze	delayed bronze	green	closed	all OA
2010	3	2	12	4	2	78	22
2019	9	4	10	3	4	69	31
2025	18	7	10	3	7	56	44

日本の機関リポジトリでの グリーンOAの状況

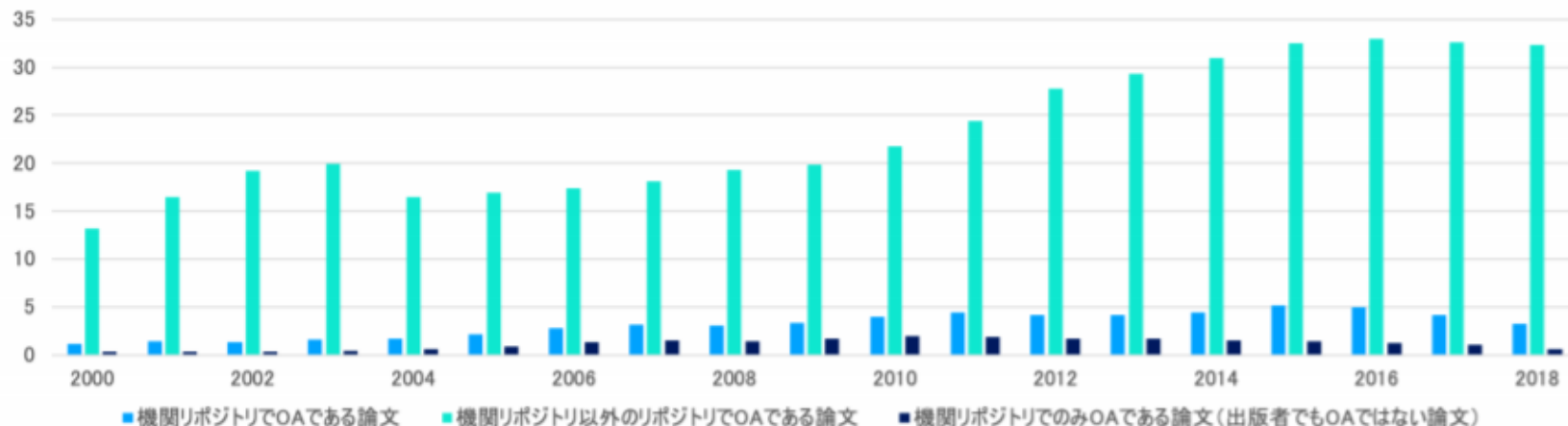


図 12: 日本における出版年ごとのリポジトリによる OA 状況.

2010年以降、
機関リポジトリで公開されている（査読済み）論文の割合は5%程度
機関リポジトリのみで公開されている（査読済み）論文の割合は1～2%程

西岡千文, 佐藤翔. Unpaywall を利用した日本におけるオープンアクセス状況の調査. 情報知識学会誌. Vol. 31, no. 1, pp. 31-50, 2021
https://doi.org/10.2964/jsik_2021_016

日本の論文がオープンになっている リポジトリ上位10件

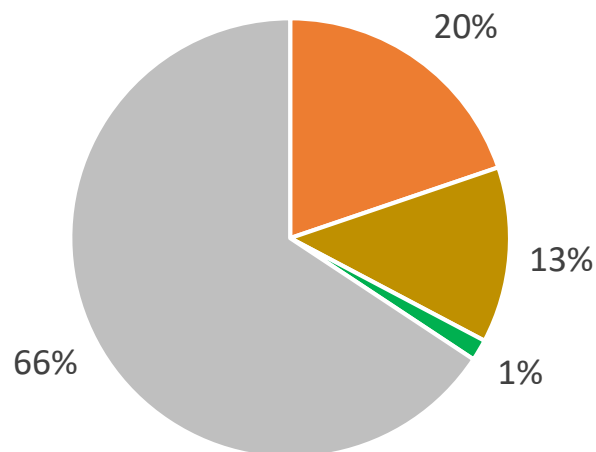
順位	リポジトリ	論文件数
1	Semantic Scholar (OA論文の検索エンジン)	272,902
2	PubMed Central (米国衛生研究所が運営するリポジトリ)	154,672
3	Europe PMC (PubMed Centralの欧州版)	115,888
4	arXiv.org (コーネル大学が運営する物理・数学等の分野のリポジトリ)	28,875
5	京都大学機関リポジトリ	11,937
6	北海道大学機関リポジトリ	9,322
7	Figshare (Digital Science社の汎用リポジトリ)	5,038
8	CERN Document Server (CERNが運営する文献サーバ)	4,944
9	筑波大学機関リポジトリ	4,494
10	金沢大学機関リポジトリ	3,555

西岡千文, 佐藤翔. Unpaywall を利用した日本におけるオープンアクセス状況の調査. 情報知識学会誌. Vol. 31, no. 1, pp. 31-50, 2021
https://doi.org/10.2964/jsik_2021_016

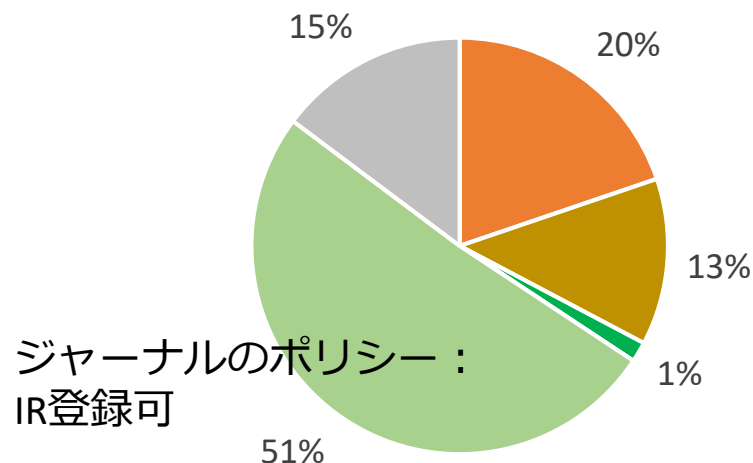
→ 機関リポジトリによるグリーンOAは低調

グリーンOAの貢献度と潜在力

- ・ データソース：Web of Science
- ・ 抽出条件：出版年が2017年、且つ、所属機関が日本の著者を含む論文



■ オープン_ゴールド ■ オープン_ブロンズ
■ オープン_グリーン ■ クローズド



ジャーナルのポリシー：
IR登録可

■ オープン_ゴールド ■ オープン_ブロンズ
■ オープン_グリーン ■ クローズド_IR登録可

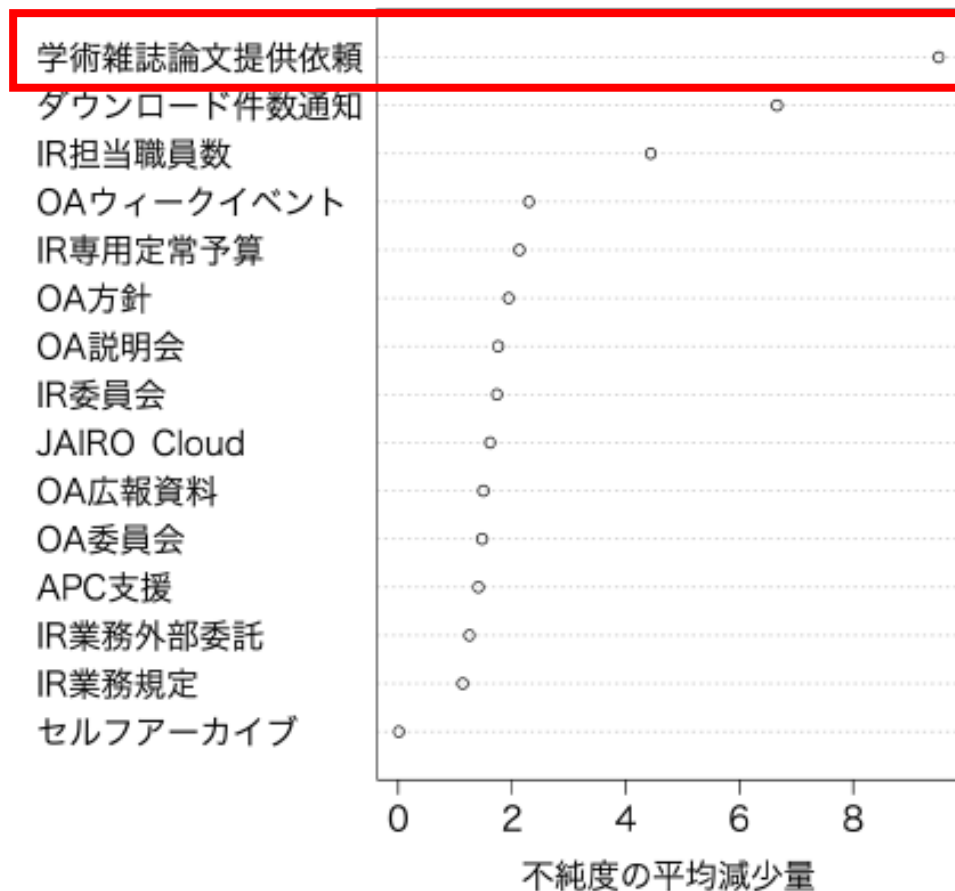
34%



85%

河合将志（NIIオープンサイエンス基盤研究センター）調べ

機関リポジトリによるOA進捗率の因果分析

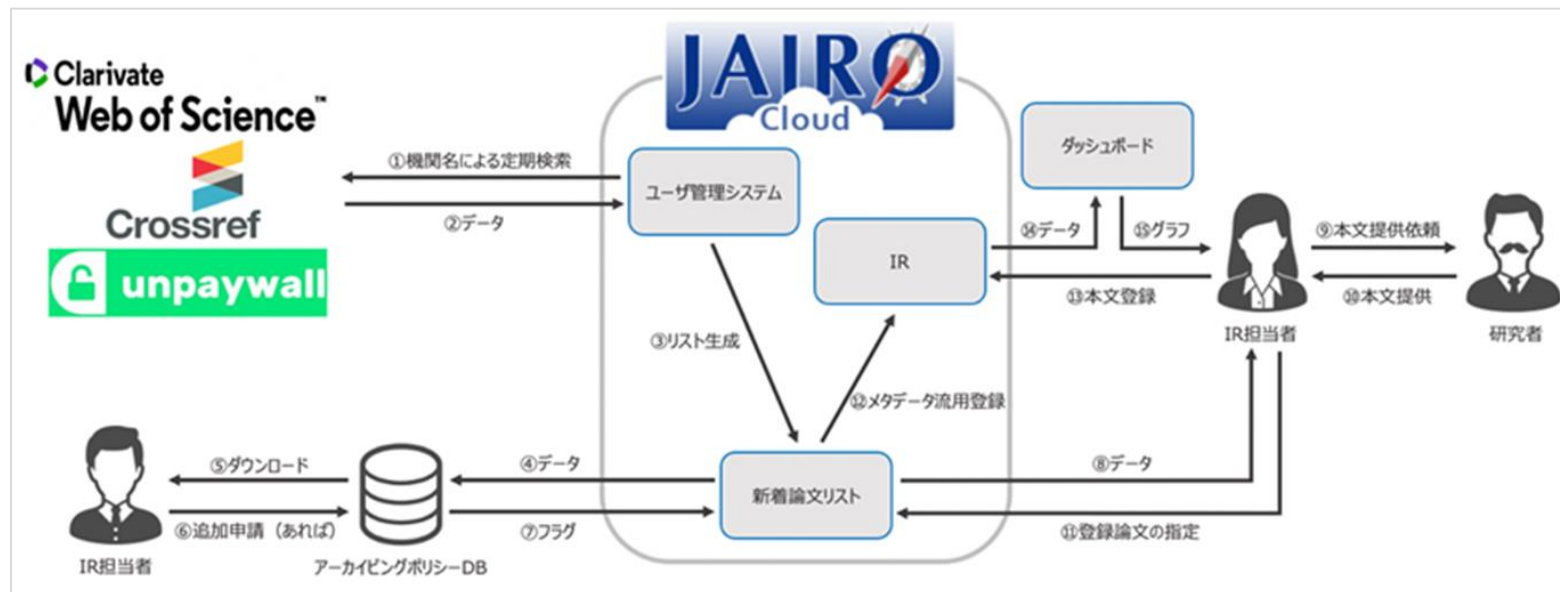


河合将志等.機関リポジトリによるオープンアクセス進捗率の因果分析. 情報知識学会誌.
31(1), 20-30 (2021)
https://doi.org/10.2964/jsik_2021_015

学術雑誌論文提供依頼に伴う作業

- 対象論文の抽出
- ジャーナルのポリシーの確認
- 著者のコンタクト先の確認
- 依頼作業
- 督促
- 登録
- 公開（エンバーゴ期間を考慮に入れて）

グリーンOA支援システム



- 図書館員による作業を軽減化するためにシステムの開発と普及（NII + JPCOAR）
- 実証実験
 - 第1段階
2020年9月～2020年11月
参加機関：1（筑波大学）
 - 第2段階
2021年1月～2021年3月
参加機関：4（大阪大学、神戸大学、九州大学、一橋大学）
 - 第3段階
2021年11月～12月（予定）
参加機関：5（横浜国立大学、新潟大学、信州大学、福井大学、熊本大学）

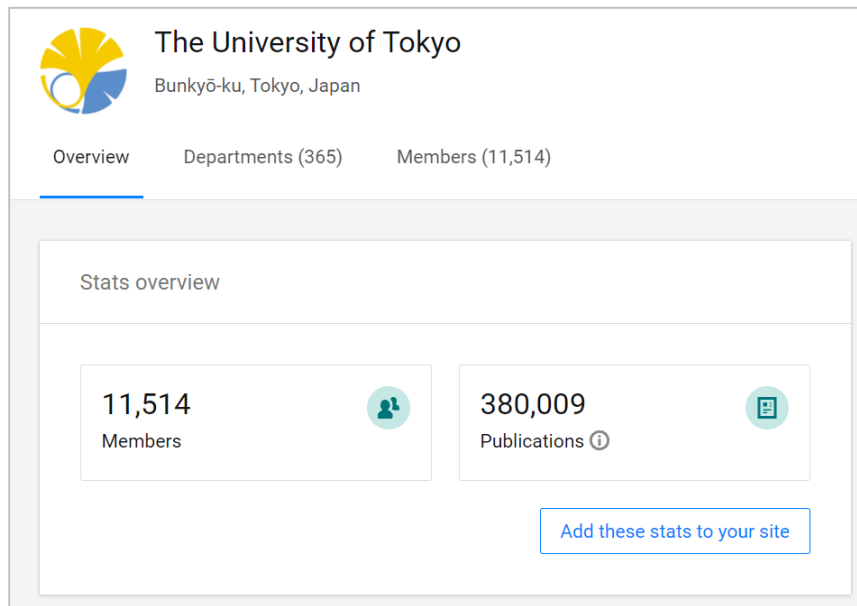
研究者と機関リポジトリ

- プレプリントサーバや学術SNSは使うが、機関リポジトリは使わない
- セルフアーカイブしない
- 個々の機関リポジトリやIRDBを検索することもない

その理由を推測すると

- 論文出版後（≡研究終了後）に、あらためてAM（受理された原稿）を機関リポジトリで公開しても何の意味もない
- 機関リポジトリに、自分の研究に関連するコンテンツがどの程度登録されているのかわからないので、検索する気になれない
- 研究支援ツールとしての機能が不足
 - 例えば、プレプリントサーバや学術SNSには次のような機能が付加されているが、
 - 論文の早期公開や共有
 - メトリックス（評価指標）
 - コメント・アノテーション付与
 - レコメンデーション
 - プロファイル
 - 文献管理
 - それに対して機関リポジトリは単なる倉庫

東大の研究者から見たRGとIR



東京大学
登録ユーザ数：11,514
論文数：380,009

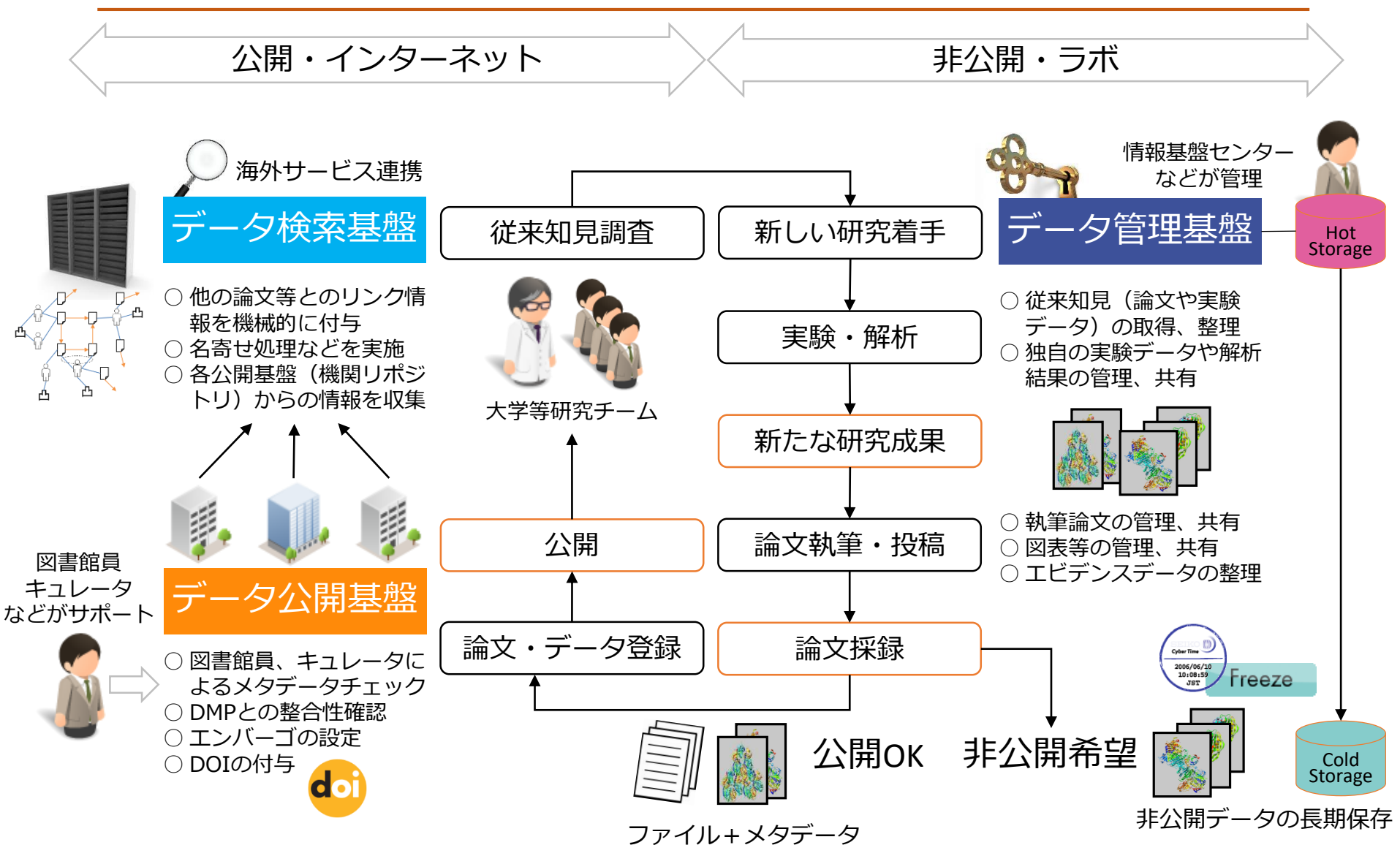
(2021.10.13 現在)

https://www.researchgate.net/institution/The_University_of_Tokyo

IRDBを

(機関=東京大学 & 資源タイプ=journal article & 言語=eng) で
検索すると、
452件が該当

NII研究データ基盤と研究ワークフロー



[https://rcos.nii.ac.jp/
ojiro@nii.ac.jp](https://rcos.nii.ac.jp/ojiro@nii.ac.jp)